

「GIGA スクール構想に基づく 1 人 1 台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議」
ヒアリング回答用紙

1. GIGA スクールの推進にあたり、各学校医に求められること。

GIGAスクール構想とは何かをまず理解していただく必要がある。そのためには、分かりやすい手引書などを作成する必要がある。また、なぜ、文科省がGIGAスクール構想を積極的に進めているのかも理解していただく必要がある。
一人一台デバイスを持つことがどういう影響を与えるか。学校だけでなく家庭においても使用されることを考えれば、どのような影響が児童生徒に見られるか、学校健診等を介して早期に分析する必要がある。

2. 令和3年3月12日付、「GIGA スクール構想の下で整備された 1 人 1 台端末の積極的な利活用について（通知）」の別添2「ICT の活用に当たっての児童生徒の目の健康などに関する配慮事項」を踏まえた対応に関すること。

日本眼科医会の見解（ICT 教育・GIGA スクール構想と眼科学校医の関わり 2021年3月5日改訂）から以下の通り抜粋する。
これまで、ガイドラインやハンドブックなどで、デジタル教科書やデジタル教材を用いた学習における眼の健康に係る留意点（姿勢、画面との距離、画面の角度、映り込み、画面を見続ける時間、画面の明るさ、教室の明るさ、色のバリアフリーなど）が示されてきたが、すべての眼科学校医が、これらの留意点を把握しておく必要がある。
GIGAスクール構想によるデジタル教科書活用の急速拡大にあたり、授業計画の立案やデジタル教科書の教育的価値を高める施策、加えて眼の健康に留意した使用方法について、スキルのある教職員が各学校に配置されていたとしても、連携できる眼科学校医は少ないと考えられる。デジタル教科書の配置がどれだけ進んでいるのか、眼科学校医に対し、各自治体の教育委員会・学校からの情報提供は少ないとみられる。
以上から、まずは、知識を得ることと ICT 教育、政府の方針の流れを理解し、地元の学校における現状把握につとめ、教育委員会・教職員と協議できる体制を整えることが第一と考える。上記、日本眼科医会の見解に加え、眼以外の影響（生活習慣の乱れ、睡眠障害、運動不足による肥満、ネット依存など）に関しても留意しておく必要がある。

3. その他、GIGA スクールを推進に関する日本医師会からのご意見等

デジタル教科書の使用に関して、紙媒体も残すべきであるという意見もあるなかで、デバイス使用を自宅にまで一気に拡大することは、慎重に行う必要があると考える。使用環境は個々に異なるし、使用頻度や管理体制も各地域で異なる可能性がある。保護者の管理体制や指導方法のみならず、肝心の教育現場の教師のICTに関する知識と指導レベルを早急に標準化する必要があり、教員の指導内容が地域によって異なることは避けるべきである。また、これまでの学校における健康診断は、デバイスを長時間使用するという環境を想定したものではない。視力や乱視以外にも睡眠障害や使用時の姿勢、生活習慣の乱れなど健診や保健調査票によるきめ細やかな管理体制が求められると思われる。
視力については、国民の関心も高いところであり、調査事業を行い実態を把握し、変化があるかどうか情報を提示する必要があると考える。